

患者さんへ

2021年9月21日

記

当泌尿器科学教室では泌尿器がんをはじめとして様々な医学研究を進めています。以下は、これから当教室が行おうとしている「前立腺がん・尿路上皮癌(膀胱癌がん・腎盂がん・尿管がん・尿道癌)、腎細胞がん・後腹膜腫瘍」の研究について説明したものです。対象となられる患者さんは、この説明をお読みいただき、研究にご協力いただければと思います。

研究課題名) 泌尿生殖器系悪性腫瘍患者を対象とした治療効果予測因子の探索

【今回の研究の内容と対象となる患者さんについて】

2016年7月1日～2026年3月31日の間に当院において前立腺がん・尿路上皮癌(膀胱癌がん・腎盂がん・尿管がん・尿道がん)、腎細胞がん・後腹膜腫瘍のいずれかと診断され、治療を受ける患者さん

【今回の研究の概要について】

泌尿器科で扱う悪性腫瘍(腎臓癌 尿路上皮癌 前立腺癌 後腹膜腫瘍 など)に対して、プラチナ系抗癌剤、タキサン系抗癌剤、血管新生を標的とした分子標的治療薬が広く用いられています。しかしながら、治療開始前にその薬剤に対する効果を予測する研究はいくつか報告があるものの、精度は十分ではなく、追加情報としての分子レベルでの情報が必要と考えています。

本研究では、悪性腫瘍の患者さんの検体(血液・尿・手術組織検体)を用いて、治療効果予測因子を探索し、その臨床的有用性について評価したいと考えています。検体はいずれも、手術組織検体および尿検体は一般診療で採取されたもので残余部分を使用いたします。血液検体は、一般診療で採血を行う際に同時に実施させていただきます。

方法) 免疫組織学的染色(手術組織または生検組織のパラフィン包埋切片を使用)

抗癌剤感受性に関与しているとされる増殖因子および増殖因子受容体(線維芽細胞増殖因子や線維芽細胞増殖因子受容体など)、膜貫通型タンパク(クロトータンパク、Gタンパク質共役型受容体など)および細胞外基質(コラーゲンタンパク、ファイブロネクチン、ビトロネクチンラミニンなど)の組織内の存在量、分子標的治療薬感受性に関与しているとされる細胞内リン酸化シグナル伝達系(MAPK, AKT, mTOR タンパクなど)の活性量

これらの結果と診療情報を照らし合わせることで、あらたな知見を探索します。もし、研究計画書や研究の方法に関する詳しい資料をご覧になりたい場合は、下記連絡先までご連絡ください。

【研究の費用負担および謝礼】

診療情報を用いた研究の費用に関しては、患者さんに経済的な負担はかかりません。また患者さんへの謝礼も発生しません。

【個人情報の保護】

対象となる組織標本は個人名を消去し、記号をつけて取り扱われます。従って、研究の際に患者さんの名前や身元が分かることはありませんが、その検体が誰のものであるかは記号から確認できるようになっています。研究の結

果は新しい治療方法の開発の目的で学会や論文等に報告されますが、臨床的な情報や研究の結果はすべて匿名で扱われるため、患者さんのプライバシーが損なわれることはありません。

【研究への同意と撤回】

この研究にご協力いただけるかどうかは、あなたの自由意思によって決定されます。もし、研究へのご協力を希望されない場合は担当医までお申し出ください。但し、研究へのご協力を拒否された場合にも、奈良県立医科大学付属病院における今後の診療の際に、あなたにとって不利益となるようなことは決してありませんのでご安心下さい。

【研究から生じる知的財産権の帰属について】

今回の研究の結果、泌尿生殖器系癌の診断や治療に役立つ新しい成果が見つかった場合には、知的財産権(特許権)が生じる可能性があります。その場合の権利は研究機関および研究遂行者に所属することになりますのであらかじめご了承下さい。

【不明な点についての問い合わせ】

以上の点について、何か不明なことがあったり、詳しい説明をお聞きになりたい場合は担当医にお申し出ください。

連絡先) 奈良県立医科大学付属病院 泌尿器科学教室 医局 (代表) 0744-22-3051

研究責任者 奈良県立医科大学 泌尿器科学教室 三宅牧人

所属長 奈良県立医科大学 泌尿器科学教室 藤本清秀

以上